

2. 学校法人福岡工業大学の沿革

(一) 草創期（昭和 29 年～昭和 40 年）

本学園の創始者である桑原玉市氏が、当時、人工衛星の完成を目の当たりにし、日本の将来のためには、電子・通信、いわゆる「電波科学」の振興および高度化を図ることが必要であるとの決意を抱いた。この思いを具現化すべく、昭和 29 年 4 月に「福岡高等無線電信学校」を開設、さらに永続的な学校教育を目指して、昭和 33 年 4 月には、学校法人福岡電波学園を設立し、同時に「福岡電波高等学校（電子科）」を創設したのが、本学園の草創期の経緯である。

その後、電波技術の高度化をさらに発展させるには、高等教育機関による大学教育が必要であるとの構想を抱き、高校設立 2 年後の昭和 35 年 4 月に「福岡電子工業短期大学」電子工学科（入学定員 80 名）を開設することとなった。さらに、3 年後の昭和 38 年 4 月に 4 年制大学の「福岡電波学園電子工業大学工学部」電子工学科（入学定員 60 名）、電子材料工学科（入学定員 60 名）を開設するに至った。その間、昭和 37 年 4 月、高校に電気科を増設、また、短大、大学の入学定員増加を経て、昭和 40 年 4 月、大学に、電子機械工学科（入学定員 60 名）、管理工学科（入学定員 60 名）を増設し、1 学部 4 学科を擁する工業系単科大学としての初期の整備が完了し、創始者の意思は完遂することとなった。

(二) 発展期（昭和 41 年～昭和 47 年）

大学開設から 4 年後の昭和 41 年 4 月、電子工業大学の教育領域をさらに拡大させるために、大学に、電気工学科（入学定員 80 人）、通信工学科（入学定員 80 人）を増設した。同時に、1 学部 6 学科を擁する総合的な工業系単科大学としての訴求を行うため、大学名称を「福岡工業大学」に、短大名称を「福岡工業短期大学」に変更し、一時期の混乱はあったものの、現在の本学園発展の礎を築くこととなった。また、昭和 41 年 4 月、高校に普通科を増設した。

表 1. 発展期における学園の構成

福岡工業大学	
【工学部】	入学定員
電子工学科	80 人
電子材料工学科	80 人
電子機械工学科	80 人
管理工学科	80 人
電気工学科	80 人
通信工学科	80 人
計	480 人
福岡工業短期大学	
電子工学科	200 人
計	200 人
福岡電波高等学校	
電子科	100 人
電気科	100 人
普通科	250 人
計	450 人
合計	1,130 人